

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和 8 年 2 月 5 日 第 91 号

佳き日かな

先日、3年生と生演奏のピアノとチェロを聴かせてもらいました。

なんといっても「生」の素晴らしさ。音は波を伝わって届くという物理の授業で習ったことが、体全体で感じられるとともに、その甘いメロディーに酔いしました。

ところで、チェロを演奏していた人は、かつて私が勤めていた中学校の生徒で、文化祭の折、チェロを抱えて舞台の中央で演奏していた姿に驚愕。去年、何十年ぶりかの再会で、私のことを覚えていてくれて嬉しかったです。同じ団体に所属するピアニストも当時の生徒。こちらは、3年間社会科を教えたバリバリの教え子で、当時からピアノの達人。さらにパワーアップしたプロの技を聴かせてもらうと楽しみにしていたのですが、予定が合わず今回は別の方でしたが、再会の楽しみが益々膨らんできました。

そんなこんなでほっこりしていた夕方、トイレから出ると突然大きな声で「校長先生」と叫ぶ巨漢に遭遇。スーツを着た偉丈夫で、「7年前お世話になりました」と続けます。

マスクを外して素顔を見せてくれると、思い出しました。小学校の校長として最初に送り出した卒業生。遠足と一緒に飛鳥へ行き、激しい雨にあい、ともにぼとぼとになった記憶まで蘇ってきました。当時は、半ズボンがよく似合うかわいい少年でしたが、今では立派な大学生。聞くところによると、当時の担任の先生とは今でも年賀状のやり取りをしているとか。

なかなか「先生」という職業の人氣が上がってきませんが、ときどき卒業生の活躍や成長に出会うと、お金では絶対に変えない感動を得ることができます。ああ佳き日かな。どうですか、みんな「先生」目指しませんか。